

# 令和 4 年度 富山県中山間地域等買い物弱者 対策モデル実証業務委託報告書

令和 5 年 3 月  
一般社団法人イドウラボ

# 目次

<b>1</b>	<b>事業概要</b> .....	<b>3</b>
1.1	背景・課題 .....	3
1.2	目的 .....	3
1.3	事業概要 .....	3
<b>2</b>	<b>月金バスの利用状況等の整理・分析</b> .....	<b>8</b>
2.1	利用状況等の把握 .....	8
2.2	運行状況等の整理 .....	24
<b>3</b>	<b>運行エリア周辺における他の交通機関との関係性の整理</b> .....	<b>25</b>
<b>4</b>	<b>今後の月金バス事業化検討</b> .....	<b>26</b>
4.1	利用促進策の検討 .....	26
4.2	月金バスを本運行する際の課題.....	27
<b>5</b>	<b>総括</b> .....	<b>28</b>

# 1 事業概要

## 1.1 背景・課題

### ■現状

井波地域では、南砺市が令和 4 年 10 月から令和 4 年 12 月まで、市営バスのデマンド実証運行を行なっている。また、庄川地域では、「チョイソコとなみ」という名称で、砺波市がデマンド型の乗り合い送迎サービスを行なっている。

一方で、井波地域と庄川地域で、これらの地域を行き来できる公共交通は、加越能バス庄川線のみであるが、加越能バス庄川線は、商店、病院、医院、入浴施設等から距離の離れた路線を運行している。

### ■ワークショップと講演会の実施

(一社) イドウラボ他が主催となり、下記のとおり井波・庄川地域の公共交通について考える連続ワークショップを行い、井波・庄川両地域の交流を促進するための交通のあり方を考えた。

・井波・庄川地域の公共交通について考える連続ワークショップ 第 1 回

・呉西地区交通まちづくり市民会議 2022 年度第 2 回交通まちづくり公開講座

○公開講座：「古刹・湯のまち鉄道につなごう - 井波・庄川地域から公共交通のあり方を考える -」

## 1.2 実証事業の目的

本実証業務では、井波地域と庄川地域を結ぶルートで定時定路線のバスを運行することにより、井波・庄川両地域にある商店、病院、医院、入浴施設等の相互利用を支援する。

本実証業務により、移動の需要を見極めるとともに、利用者にアンケートを取ることで、利用しやすい料金についても調べる。また、加越能バス庄川線との乗り継ぎ需要も調べる。

## 1.3 事業概要

下記の要領で井波地域と庄川地域を結ぶ定時定路線のバスを運行する。

### A) 企画運営

一般社団法人 イドウラボ

### B) 後援

井波モビリティ協議会、一般社団法人 ジソウラボ、南砺市商工会井波支部、庄川町商工会、砺波庄川まちづくり協議会、呉西地区交通まちづくり市民会議

### C) 利用料金

無料

### D) 実施期間

令和 5 年 1 月 6 日 ~ 令和 5 年 2 月 27 日

### E) 運行曜日・本数

月・金曜日に 1 日 3 便を運行(合計 16 日の運行を予定)

### F) 運行車両

ジャンボタクシー(定員:9 名)

### G) 運行委託先

チューリップ交通株式会社

## H) 運行ルート

### a) 運行ルート概要

図 1 の通り運行する。図 1 のアルファベットは、表 1(時刻表)のアルファベットに対応する。運行経路は、時刻表を参照。なお、地点 O、P、Q、R、S、O を結ぶ部分は、反時計回りに一周する。

注 1 ルート内であれば途中乗降を可能とする。

(途中乗車は交通状況を鑑み、可能な限り柔軟に対応する。)

注 2 井波バス停では、加越能バス庄川線と接続を考慮する。

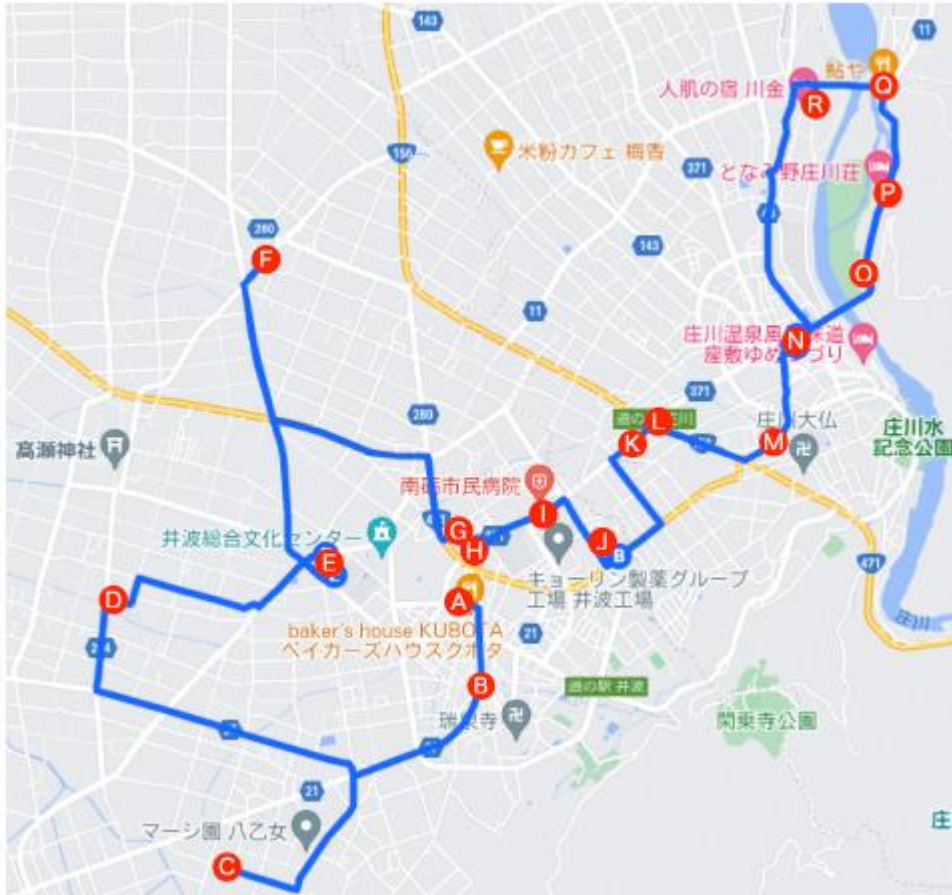


図 1 月金バス運行ルート

※運行ルートは、過去に開催された南砺市まちづくり検討会議にて、地域全体を効率的に巡回するデマンド式ボランティアタクシー循環路線の運行について述べられた提言書の内容等を参考に設定。

## I) 時刻表

### a) 時刻表

表 1 の時刻表に従って運行する。

※加越能バス井波バス停にて、色付きの時刻で加越能バス庄川線と接続する。

黄色い網掛けの時刻は、高岡行きのバスと、青い網掛けの時刻は、庄川行きのバスと接続する。

表1 月金バス時刻表

経由地点	1便	2便	3便
1・A アスモ	9:02	10:25	11:48
2・B 交通広場（看板前）	9:06	10:29	11:52
3・C 南山見交流センター	9:11	10:34	11:57
4・D 高瀬交流センター	9:17	10:40	12:03
5・E ラフォーレ・きぼりっこ	9:22	10:45	12:08
6・F 山野交流センター	9:26	10:49	12:12
7・G 加越能バス井波	9:31	10:54	12:17
（参考）加越能バス庄川行出発時間			12:27
8・H 鷹西医院	9:32	10:55	12:18
9・I 南砺市民病院	9:35	10:58	12:21
10・J 石坂内科	9:38	11:01	12:24
11・K ひらせい前	9:41	11:04	12:27
12・L 道の駅庄川	9:43	11:06	12:29
13・M 西蓮寺	9:46	11:09	12:32
14・N 庄川生涯学習センター	9:50	11:13	12:36
15・O やまぶき	9:53	11:16	12:39
16・P となみ野庄川荘	9:54	11:17	12:40
17・Q 鮎や	9:55	11:18	12:41
18・R 川金	9:58	11:21	12:44
19・N 庄川生涯学習センター	10:03	11:26	12:49
20・M 西蓮寺	10:07	11:30	12:53
21・L 道の駅庄川	10:10	11:33	12:56
22・K コメリ	10:12	11:35	12:58
23・J 石坂内科	10:15	11:38	13:01
24・I 南砺市民病院	10:18	11:41	13:04
25・H 鷹西医院	10:21	11:44	13:07
26・G 加越能バス井波	10:26	11:49	13:12
（参考）加越能バス高岡行出発時間	10:36	12:03	13:22
27・F 山野交流センター	10:31	11:54	13:17
28・E ラフォーレ・きぼりっこ	10:35	11:58	13:21
29・D 高瀬交流センター	10:40	12:03	13:26
30・C 南山見交流センター	10:46	12:09	13:32
31・B 交通広場（看板前）	10:51	12:14	13:37
32・A アスモ	10:54	12:17	13:40

b) 設定根拠

- ・既存バス路線との接続を図り<sup>1</sup>、連携すること、かつ、買い物の行き帰りに使いやすい時刻設定とすることを考慮して運行時刻を設定した。
- ・買い物の行き帰りに使いやすいよう、概ね1時間に1本の便数となるように工夫した。
- ・運行の経由地点間の移動時間

<sup>1</sup>一般的に、公共交通はパターンダイヤにした方が利用者数が増えることが知られている

「積雪寒冷地域の冬期交通」<sup>2</sup>を参考にし、通常時の1.2倍の時間に設定した。

・運行曜日

井波・庄川地域の主な商店、医院の休業日を調べた上で休業日の多い曜日は避けて選定した。

※主な商店、医院の休業日の休業日は表2の通りである。

表2 井波・庄川地域の主な商店、医院の休業日と営業時間

乗降施設	アスモ	交通広場	きぼりっこ	ラフォーレ	鷹西医院	南砺市民病院	石坂内科
営業(受付)時間	10-19時	—	13-18時	9-21時	9-18時	8時-11時半、13時-18時	9-18時
定休日	なし	—	日曜	木曜	水曜、日曜	土曜、日曜	日曜
乗降施設	ひらせい	道の駅庄川	西蓮寺	庄川生涯学習センター	やまぶき	庄川荘	コメリ
営業(受付)時間	9-20時	9-18時	—	9-17時	9-19時	11-20時	9-20時
定休日	なし	火曜	—	月曜	火曜	不定休	なし

J) 告知方法

a) 説明会等の実施

フライヤーとポスターにより、次の方法で告知する。

- 該当エリアにチラシを新聞折込(約8,000部)
- 井波地域全域にチラシを全戸配布(約2,700部)
- 東山見地区(632部)、青島地区(部数確認中)全域にチラシを全戸配布
- チラシを交流センター、公民館、施設等に設置
- 各地域づくり協議会(井波地域)、各自治振興会(庄川地域)にて説明を実施
- 協力頂ける寺院と連携し、檀家・門徒へチラシを直接配布
- 各施設に概要の分かるポスター設置
- 運行車両に本業務を告知するマグネット貼り付け

b) 効果計測

- ・乗降人数を計測
- ・パンチ穴式アンケートを配布。(アンケート図)

※アンケートでは、年代、乗降場所、自宅の最寄りの乗降場所、支払い許容利用料金について質問。支払い許容利用料金は、今後、同様な乗り合い交通を計画する際の参考とするとともに、乗客の満足度を計るためにも使用。さらに、加越能バスへの乗り継ぎの有無についても質問。

<sup>2</sup> <https://www.iatss.or.jp/common/pdf/publication/iatss-review/05-4-07.pdf>

(アンケート図)

**? あなたの年齢を教えてください**

20歳以下   20-59歳   60-69歳   70-79歳   80-89歳   90歳以上

**? ご利用回数を教えてください**

初めて   2回目   3回目   4回以上

**? 乗車場所を教えてください**

加越能バスから乗り継いだ方はこちらを押して下さい

アスモ   交通広場   南山見交流センター   高瀬交流センター   ラフォーレきぼりっこ   山野交流センター   加越能バス井波   鷹西医院   南砺市民病院

石坂内科医院   ひらせいコメリ   道の駅庄川   西蓮寺   庄川生涯学習センター   ゆずの郷やまぶき   となみ野庄川荘   鮎や   川金

**? 降車場所を教えてください**

加越能バスへの乗り継ぎが目的の方はこちらを押して下さい

アスモ   交通広場   南山見交流センター   高瀬交流センター   ラフォーレきぼりっこ   山野交流センター   加越能バス井波   鷹西医院   南砺市民病院

石坂内科医院   ひらせいコメリ   道の駅庄川   西蓮寺   庄川生涯学習センター   ゆずの郷やまぶき   となみ野庄川荘   鮎や   川金

**? 自宅から一番近い乗降場所を教えてください**

アスモ   交通広場   南山見交流センター   高瀬交流センター   ラフォーレきぼりっこ   山野交流センター   加越能バス井波   鷹西医院   南砺市民病院

石坂内科医院   ひらせいコメリ   道の駅庄川   西蓮寺   庄川生涯学習センター   ゆずの郷やまぶき   となみ野庄川荘   鮎や   川金

**? ご自宅と最寄りの乗降場所までの距離を教えてください**

徒歩3分未満   徒歩3～5分   徒歩5～10分   徒歩10分以上

**? 今後このバスに最大いくらまで支払えますか?**

100円   200円   300円   400円   500円   600円

c) 広報

イドウラボの HP 及び SNS、ジソウラボの SNS を用いて月金バスの概要や各月の結果速報を公表する。

## 2 月金バスの利用状況等の整理・分析

### 2.1 利用状況等の把握

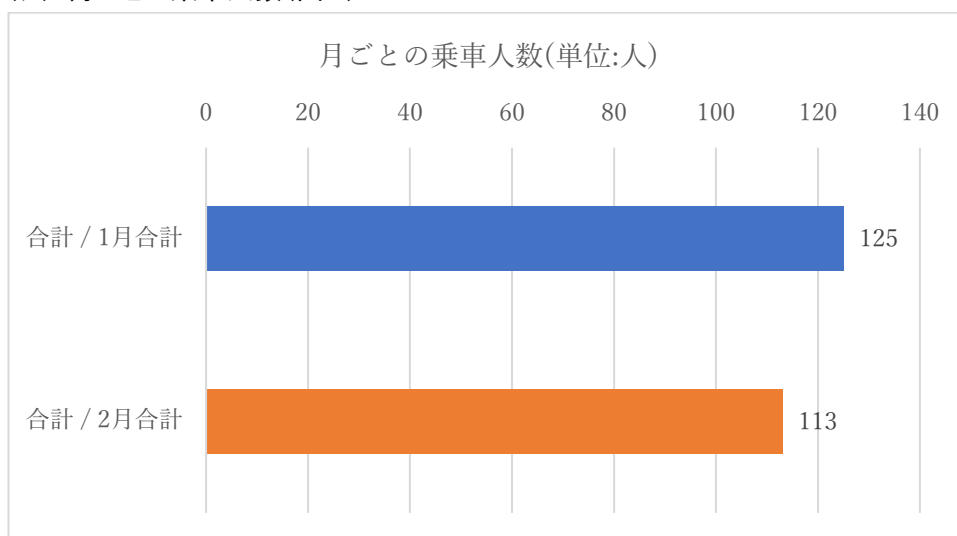
#### A) アンケート質問票

バスの利用者に対しては、バス車内での回答のしやすさの観点から、ビンゴシートを用いたアンケートを実施した。

#### B) 結果と考察

##### a) 利用者数の集計結果と考察

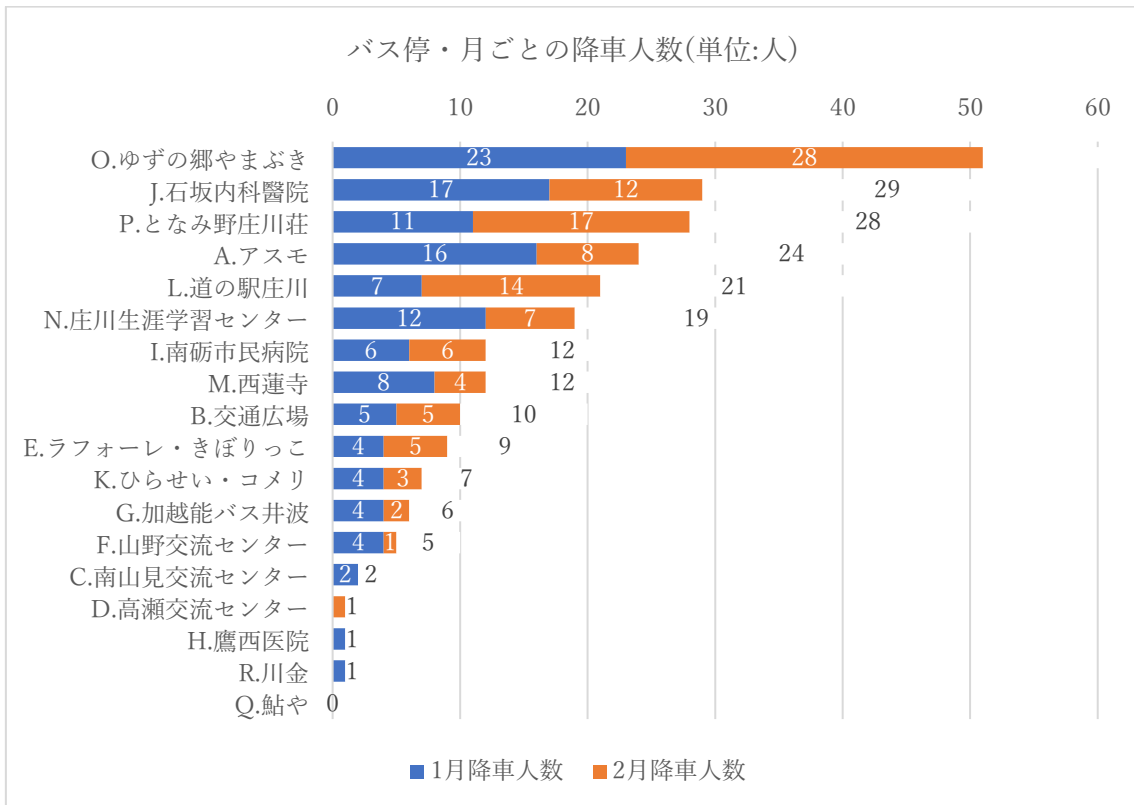
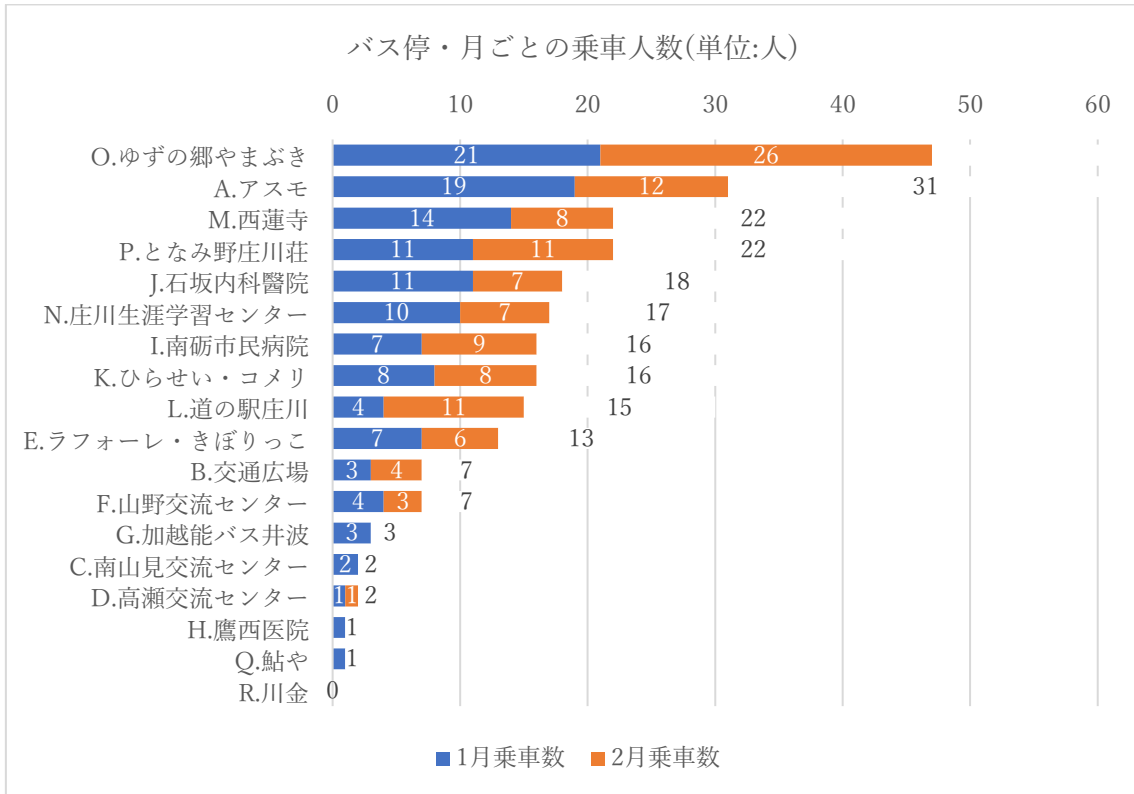
##### (ア) 月ごとの乗車人数(図 2)



1月に125名、2月に113名で計238名の乗車人数となった。運行期間16日間で、平均すると1日に約15名の方にご利用を頂くことができた。

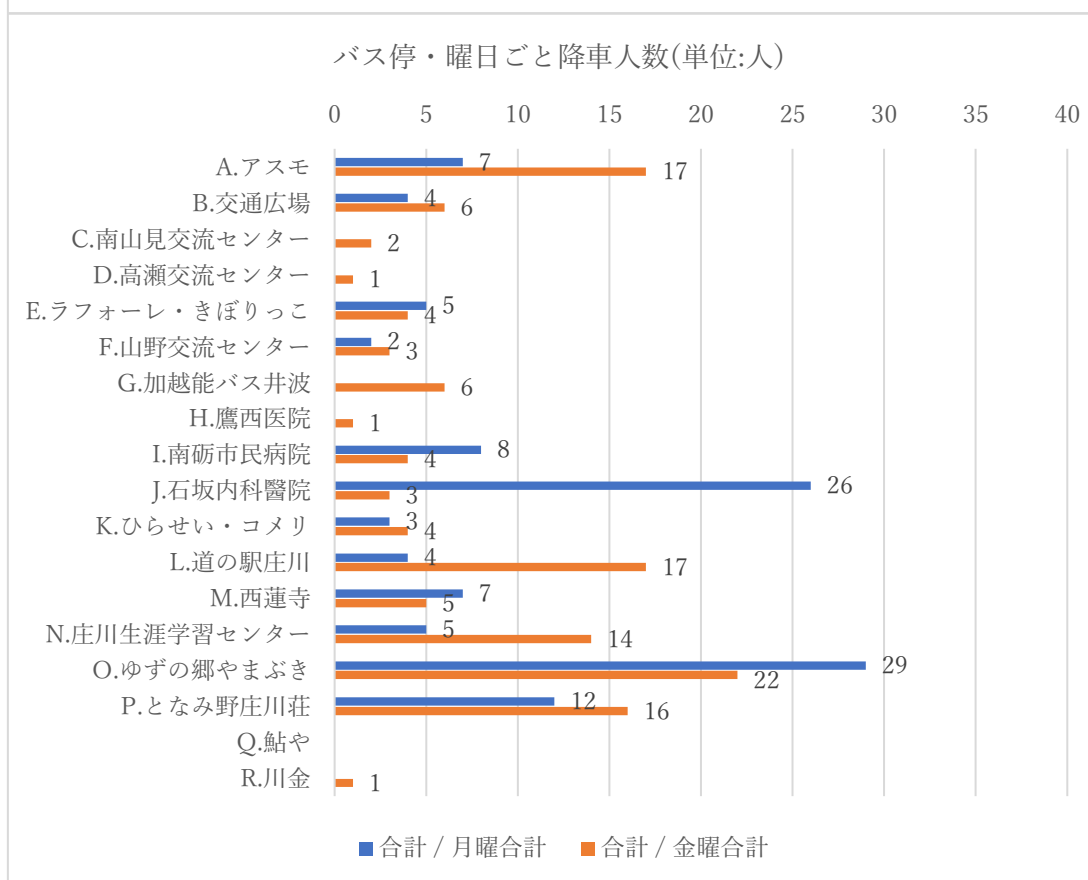
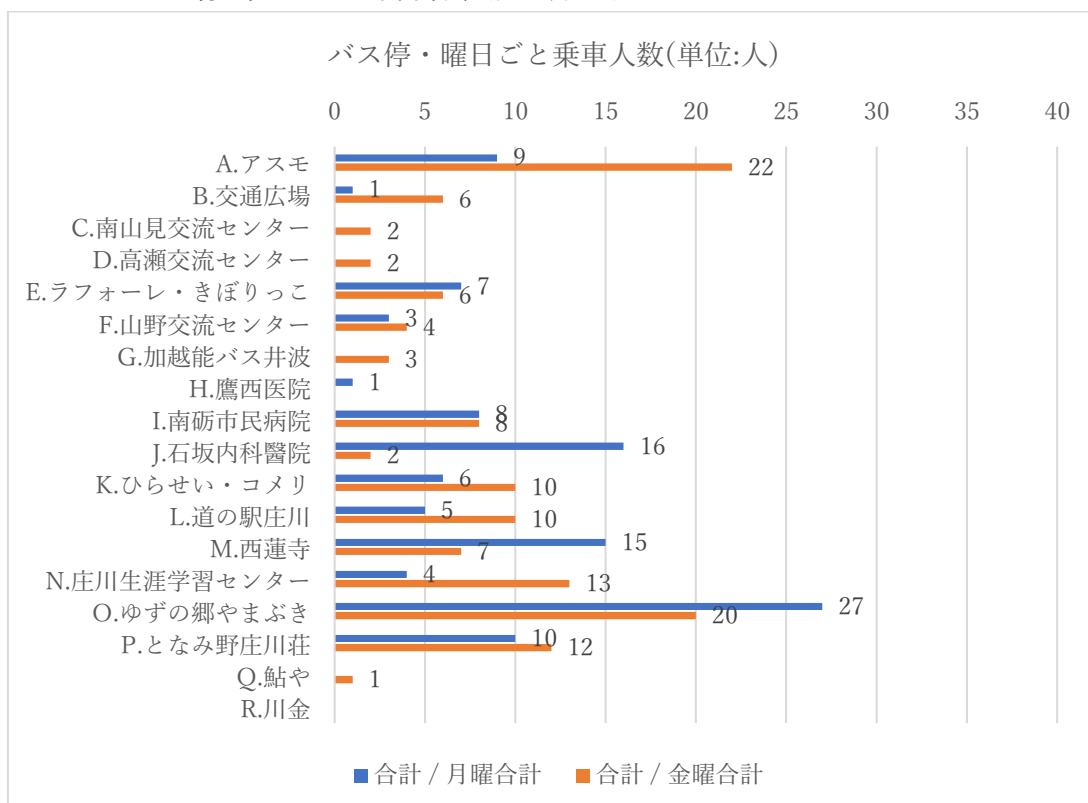


(イ) バス停・月ごとの乗降者数(図3、図4)



- ・「O. ゆずの郷やまぶき」、「A. アスモ」、「M. 西蓮寺」、「P. となみ野庄川荘」  
→バスの主な利用者である高齢者が日常的に利用する施設への移動に多く利用されたと考えられる。
  
- ・「Q. 鮎や」、「R. 川金」、「H. 鷹西医院」  
→鮎やは冬季休業中。  
→家族づれでの利用が想定される飲食店への移動手段としては、自家用車がある等の理由からバスは選ばれなかったと考えられる。
  
- ・「J. 石坂内科醫院」からの乗車数は多いが、「H. 鷹西医院」からの乗車数は少なかった。
  
- ・交流センター  
→交流センターを目的とした移動手段としては利用されなかった。

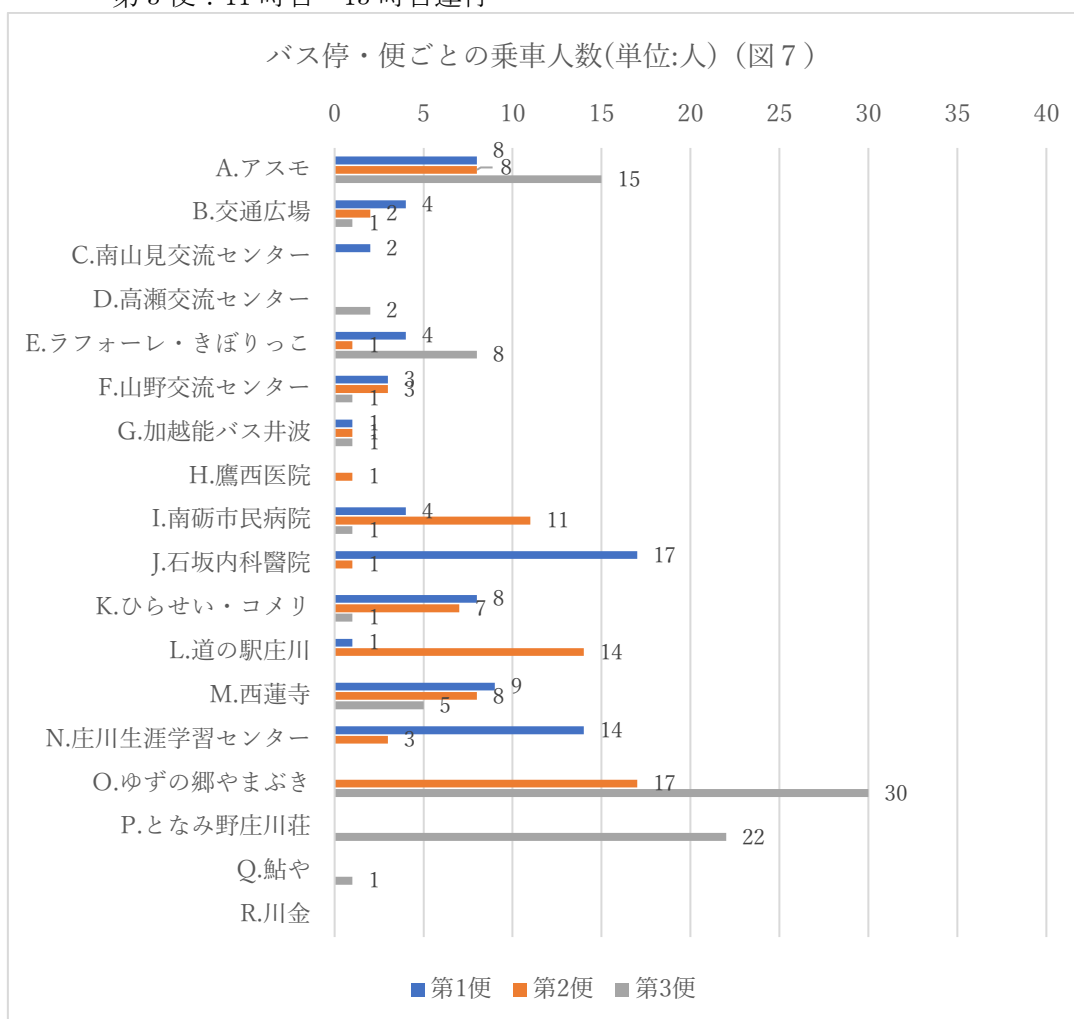
(ウ) バス停・曜日ごとの乗降者数(図 5、図 6)

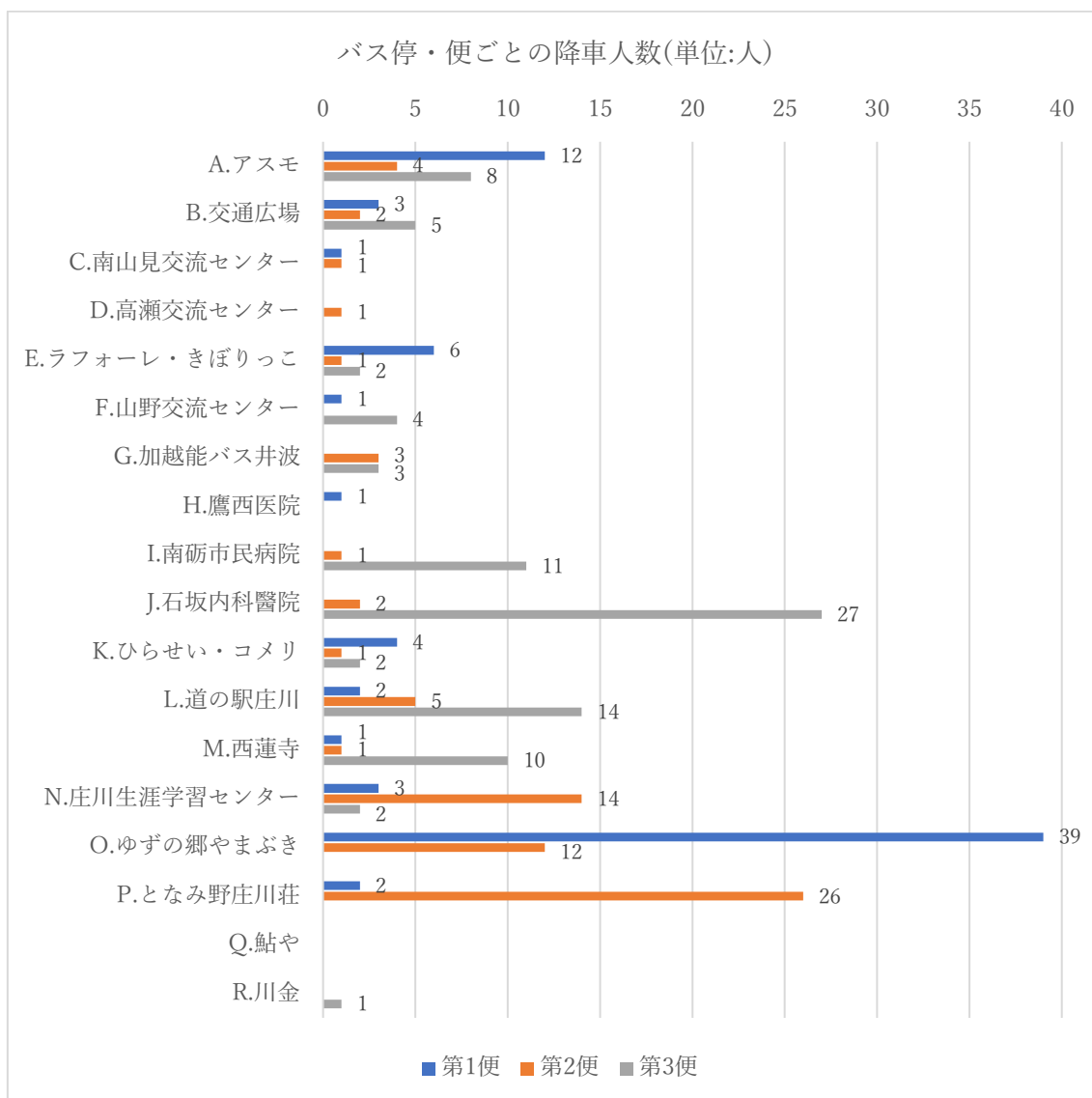


- ・「A.アスモ」, 「L.道の駅庄川」は金曜日の乗車人数が月曜日と比較して2倍以上多くなっている。  
→週末に向けて、金曜日に買い物に出かける高齢者が多いのではないかと
- ・「J.石坂内科醫院」は月曜日の降車人数が金曜日と比較して8倍以上多くなっている。  
→毎週月曜に通院している地域高齢者が多いのではないかと。
- ・「O.ゆずの里やまぶき」, 「P.となみ野庄川荘」、曜日ごとの差が少ない施設も多く確認できる  
→月曜日、金曜日とどちらも平日であることもあり、少なくとも月曜と金曜については曜日の違いによる影響が少ない可能性がある。

(エ) バス停・便ごとの乗降者数(図7、図8)

※第1便：9時台～10時台運行、第2便：10時台～12時台運行、  
第3便：11時台～13時台運行

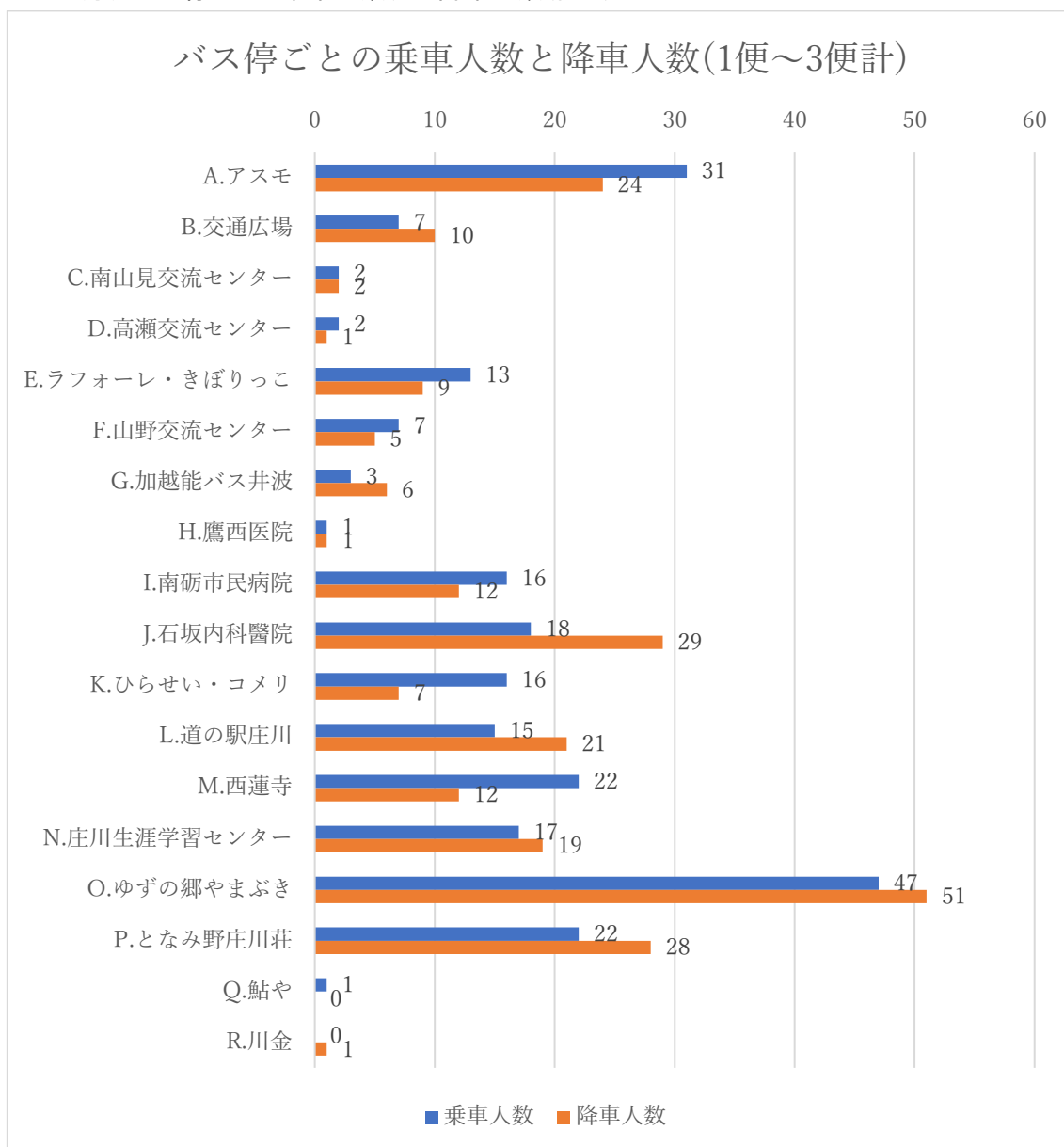




■P. となみ野庄川荘

日帰り入浴の営業時間は11時からのため、営業時間に合わせて2便で訪れる利用者が多いと考えられる。帰宅は、3便でしているものと考えられるが、2便到着と3便での出発の間が1時間20分程度であることから、ちょうど良いのではないかと考えられる。一方でジムと温泉をどちらも利用する人にとっては、2便で訪れて3便での帰宅は間に合わないことも想定され、利用者の意見を踏まえつつ時刻表を再検討する余地があると考えられる。

(オ) バス停ごとの乗車人数及び降車人数(図9)



- ・乗車人数が降車人数に対して多い場合は、他施設からの帰宅の際に月金バスを利用できなかった可能性がある。
  - ・降車人数が乗車人数に対して多い場合は、当該施設を目的として利用した人のうち、一定数が月金バスを帰宅の用として利用できなかった可能性がある。
- 個々人の月金バスの利用方法や、外出の際に片道のみ月金バスを利用した方の詳細について把握することで、時刻表の最適化につながる検討を行うことができる。

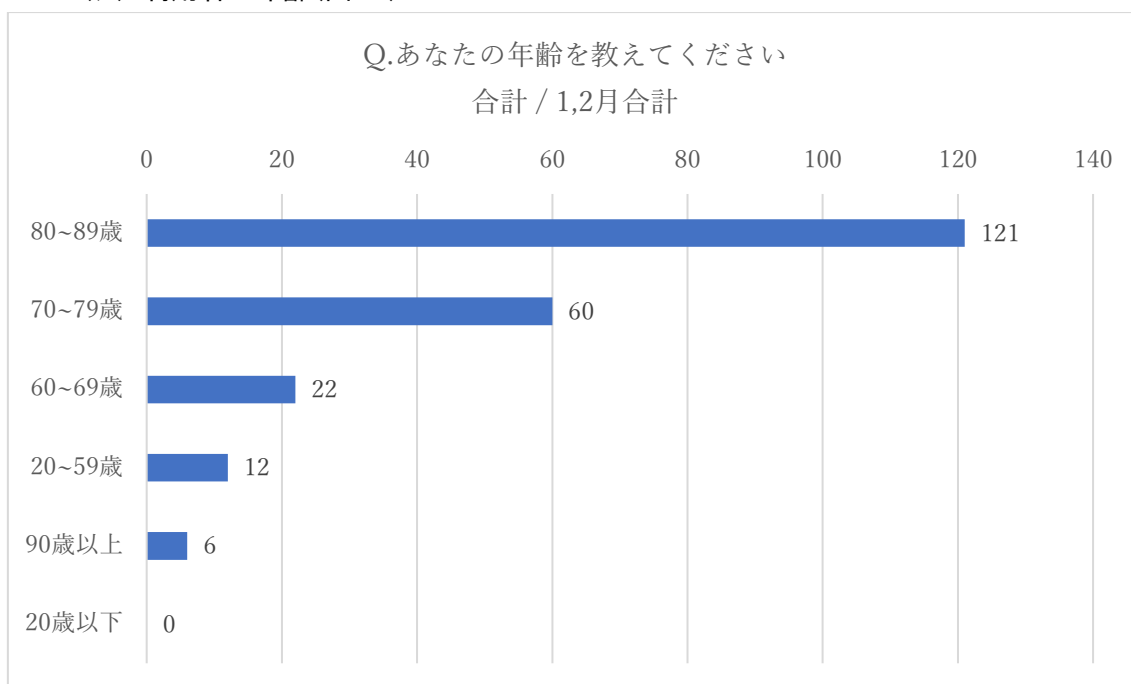
#### (カ) 月金バスと加越能バスとの乗り継ぎ利用

p. 5 の時刻表にある通り、月金バスと加越能バスを井波バス停で乗り継げるような時刻に設定した。この乗り継ぎについてもアンケートで質問したが、乗り継ぎ利用をしたという回答はなかった。

## b) アンケート調査の集計結果と考察

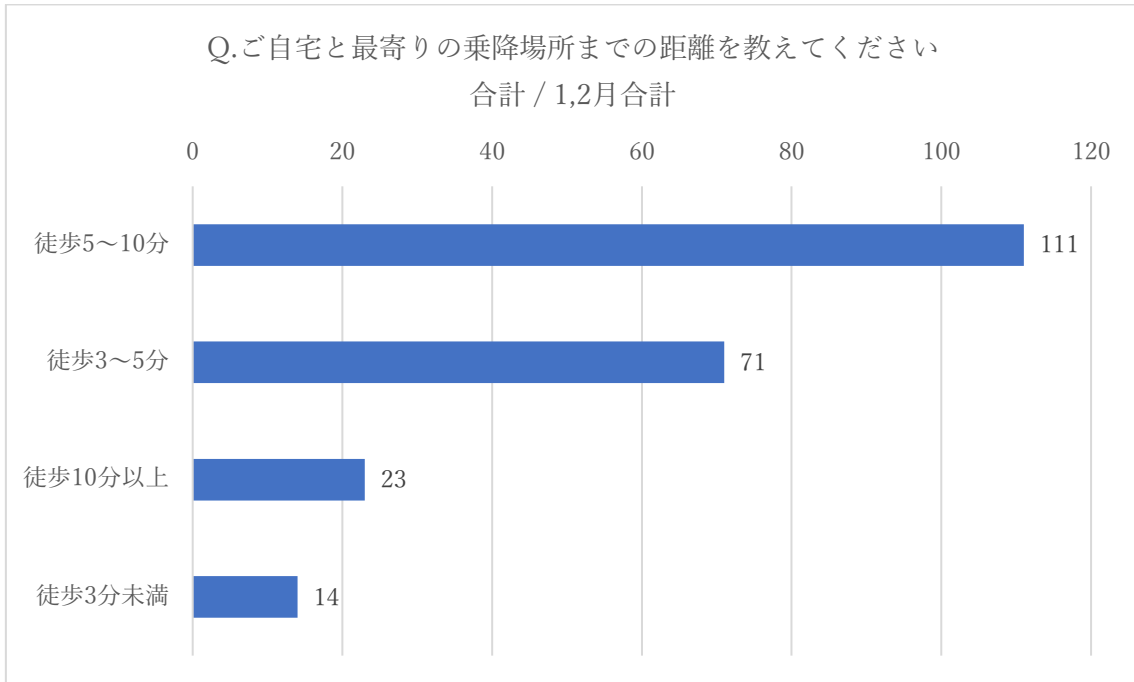
ビンゴアンケートの結果を以下に整理する。なお、一部利用者が回答していない場合(アンケートの全部又は一部)もあることから、利用者数と回答数の合計に一部ずれが生じる。

### (ア) 利用者の年齢(図 10)



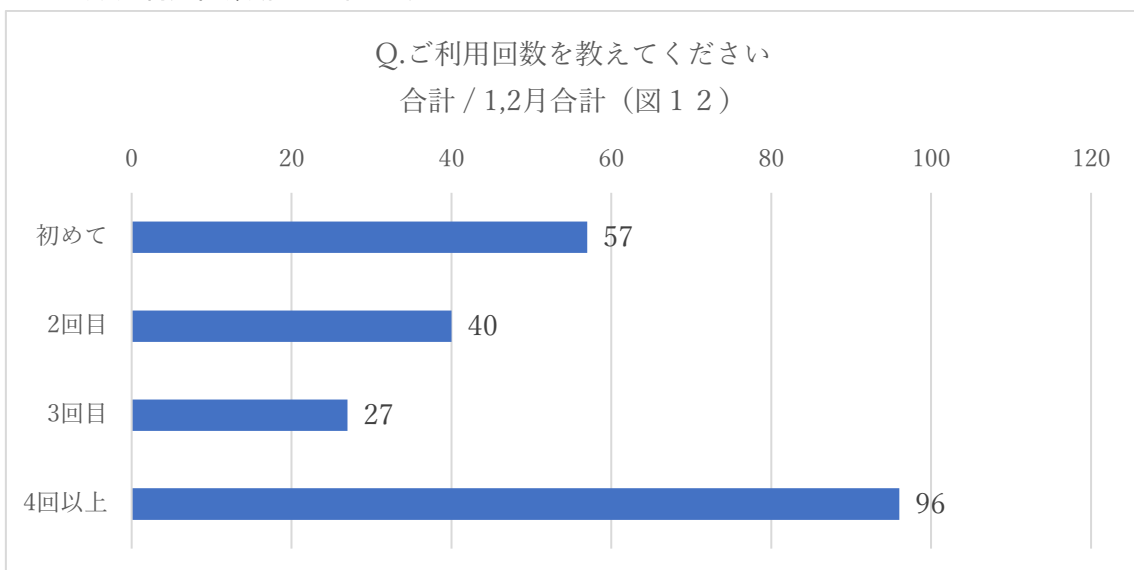
- ・利用者の過半数が80歳～89歳の高齢者であり、70～89歳で全体の8割程度を占めた。
- 当初想定していた、自動車を自身で運転できない世代の利用者が多かったことが分かる。また、20歳以下の利用者はいなかった。20歳以下の層は家族の自動車での移動が一般的であり、かつ今回のバスルートにおいては利用ニーズが少なかったものと考えられる。

(イ) 自宅と最寄り乗降場所までの距離(図 11)

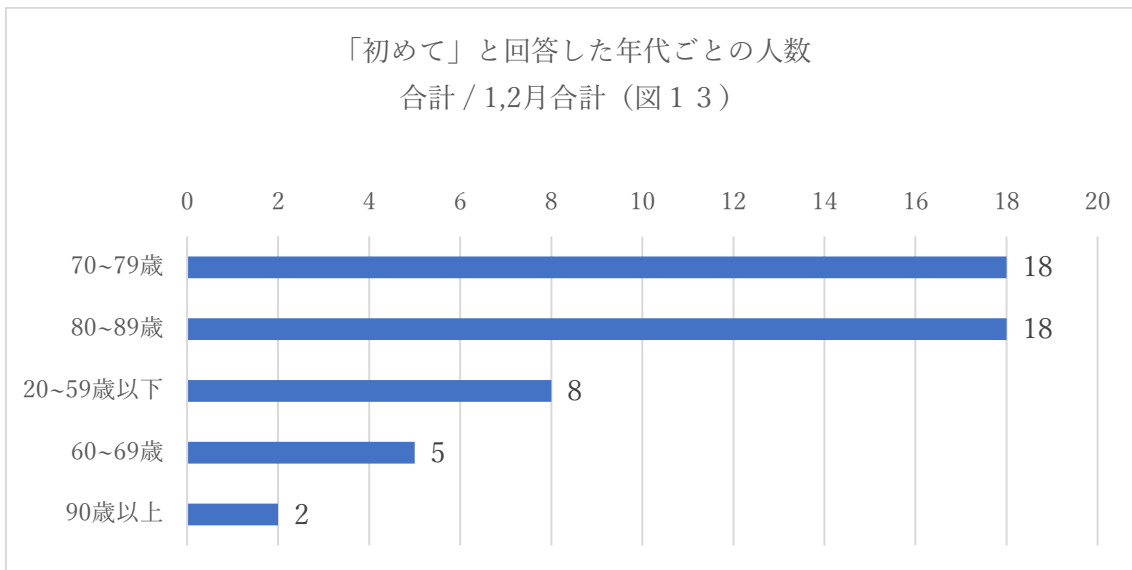


- ・ 徒歩 5～10 分の利用者が約半数を占めた。
- ・ 徒歩 10 分以上掛けてバス停まで移動している利用者も全体の 1 割程度を占めた。  
→バス停までの移動距離が短くなれば利用頻度が増えるのか、また、バス停までの移動距離が長いことから利用を断念した人(潜在利用者)がどの程度いたかを、各施設でアンケートを取るなどして把握していくことが必要。

(ウ) 利用回数(図 12・図 13)



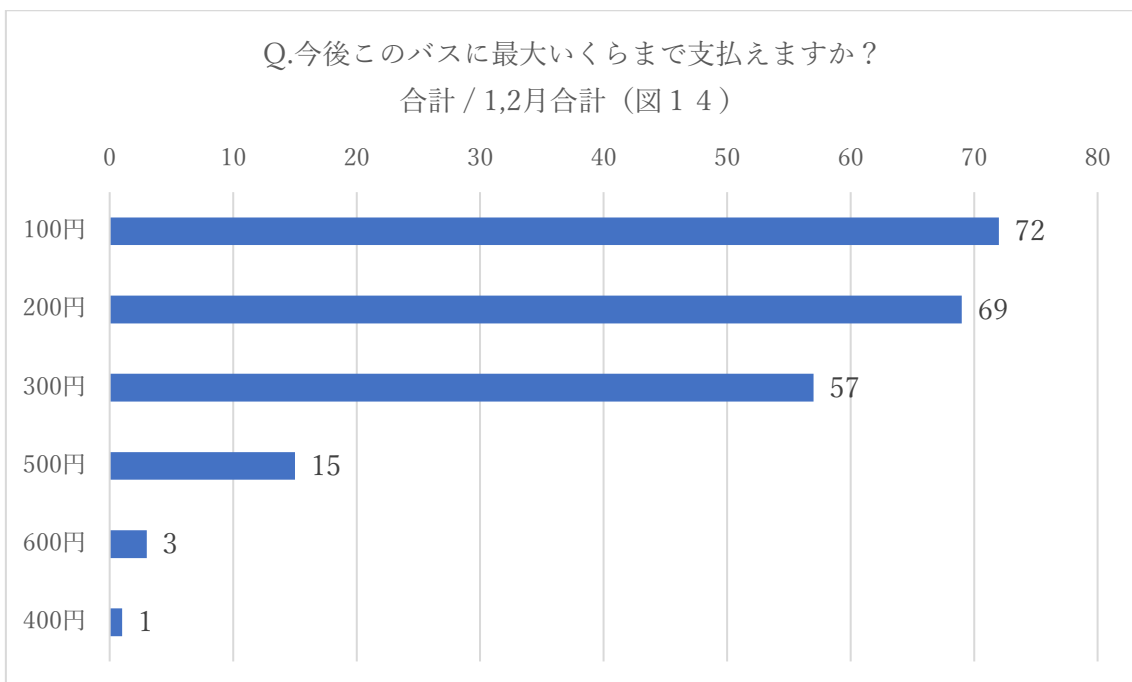




- ・本実証運行の**利用者が少なくとも 57 人いた**ことが分かる
- ・2 回目の利用には自宅から施設の往復で 1 度の移動のなかで利用した人が多いと想定されるが、2 回以上移動の目的で利用したと想定される 3 回目利用者が 27 人と 1 回目利用の約半数であった。
- ・70 歳以上で 1 度でも利用した人数は 36 名であった。(アンケートの回答ミスにより、図 1 1 と図 1 2 で回答数の計にずれが生じる点に留意)

→本実証期間運行の 16 日間(毎週 2 曜日×8 週)に対して**約 60 名の方が少なくとも 1 度利用されたのは非常に良い成果であった**と考えられる。一方で 3 回目以上利用した人はその半数の 27 名に留まる。

(エ) バス利用料金(図 14・図 15)



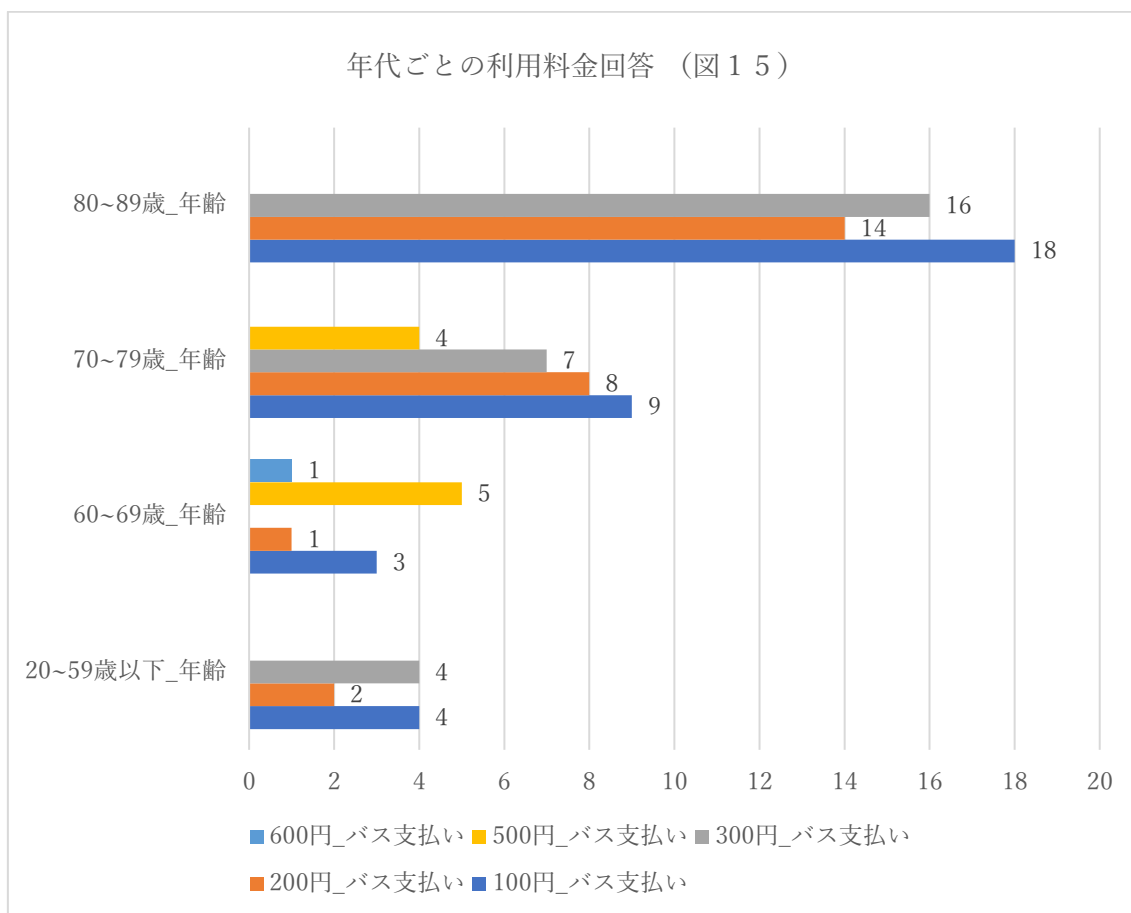


図 14 より、今後継続する際の利用料金を把握するための質問について以下のことが分かった。

- ・ 100 円～300 円という回答がほとんどを占めた
- ・ 100 円、200 円の回答がそれぞれ全体の約 3 割、300 円の回答も 26% となった。

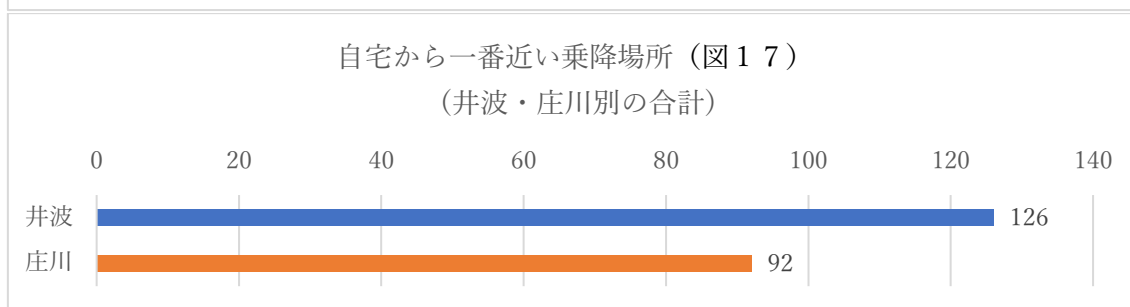
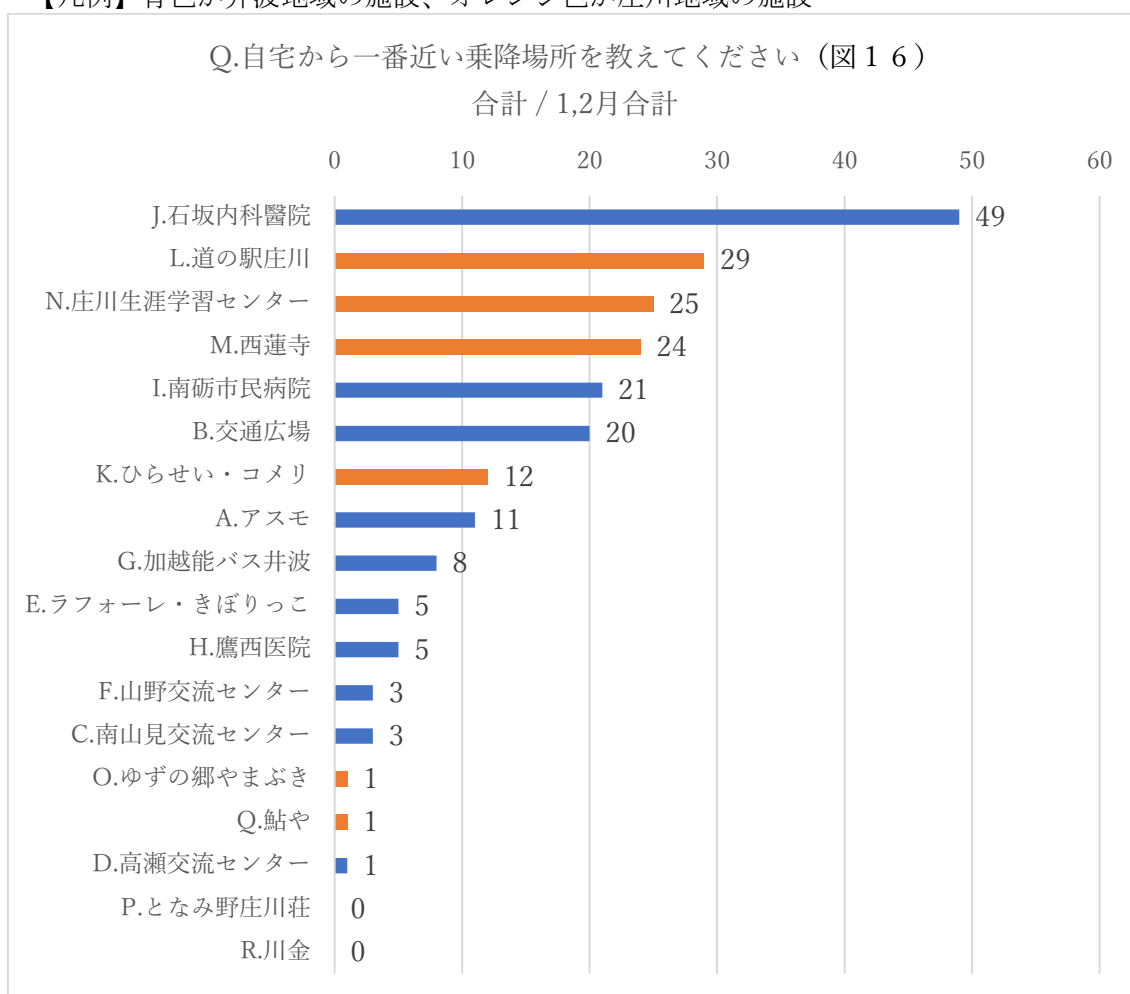
図 15 より、年代ごとの利用料金支払い意思について以下のことが分かった。

- ・ 60～69 歳の年代除き 100 円の回答が最多であった。
- ・ 一方で、200 円や 300 円の回答についても 100 円の回答と回答数に大きな差がある訳ではなく、80～89 歳の年代では 100 円の回答が 18 人、300 円が 16 人とほとんど差がないことが分かる。

→ 月金バスを日常的に利用するのが、免許返納後の世代（80～89 歳）と想定すると、日常的な利用においても 100 円～300 円の支払い意思が十分に確認できており、300 円以内であれば利用料金を設定しても継続利用が見込めるのではないかと考えられる。

(オ) 自宅から一番近い乗降場所

【凡例】 青色が井波地域の施設、オレンジ色が庄川地域の施設



- ・「J.石坂内科醫院」(井波)が最寄りバス停の利用者が最も多く、次いで「L.道の駅庄川」(庄川)、「N.庄川生涯学習センター」(庄川)が多い結果となった。
- ・なお、利用者が多かったバス停のうち、バス停全体で見ると、井波、庄川それぞれからバランス良く利用されており、井波が約 58%、庄川が約 42%で若干井波からの利用者が多かった。

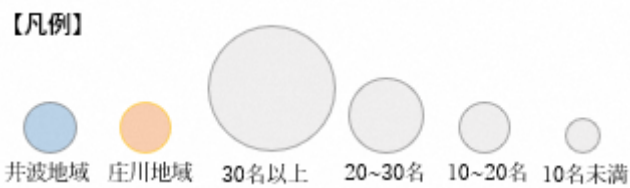
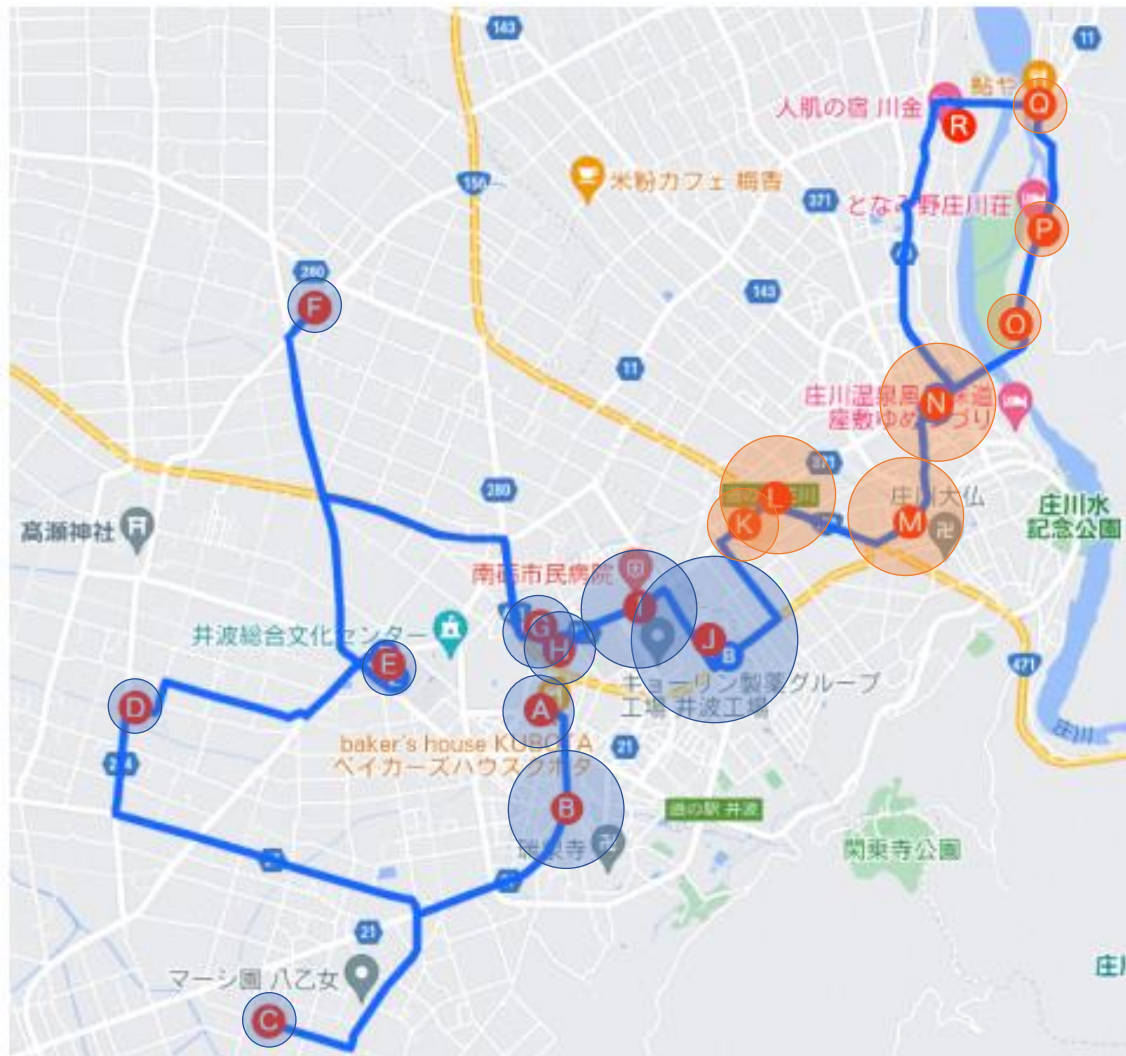
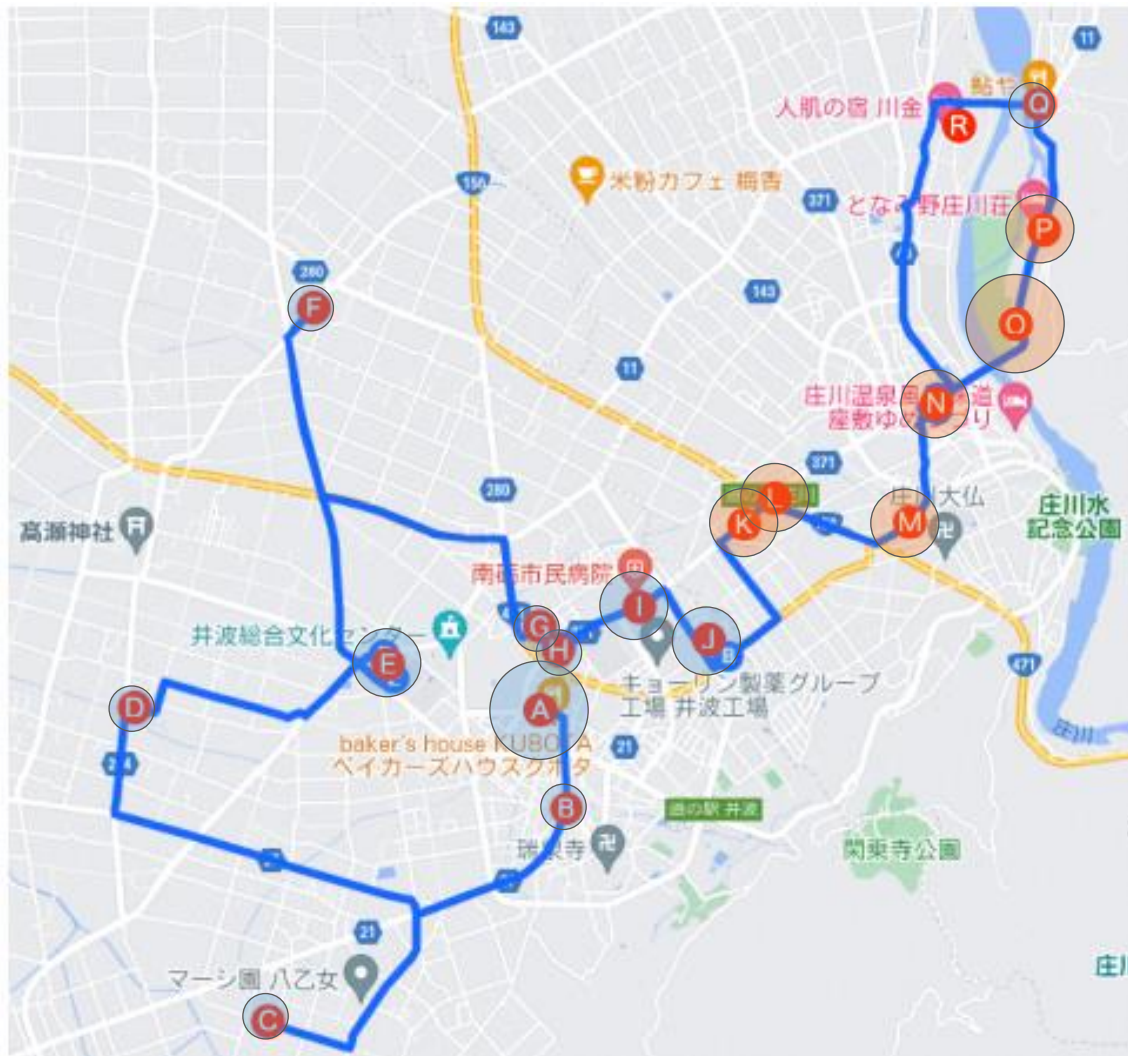


図 18 自宅から一番近い乗降場所

図 18 より庄川地域の「N. 庄川生涯学習センター」から井波地域の「I. 南砺市民病院」のバス停間に利用者が集中していることが分かる。特に井波地域の「J. 石坂内科醫院」周辺が最も多い。また、井波地域の「B. 交通広場」についても一定の利用者がいたことが分かる。



【凡例】

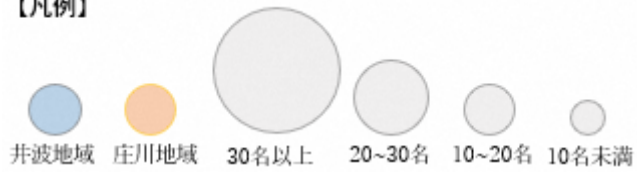
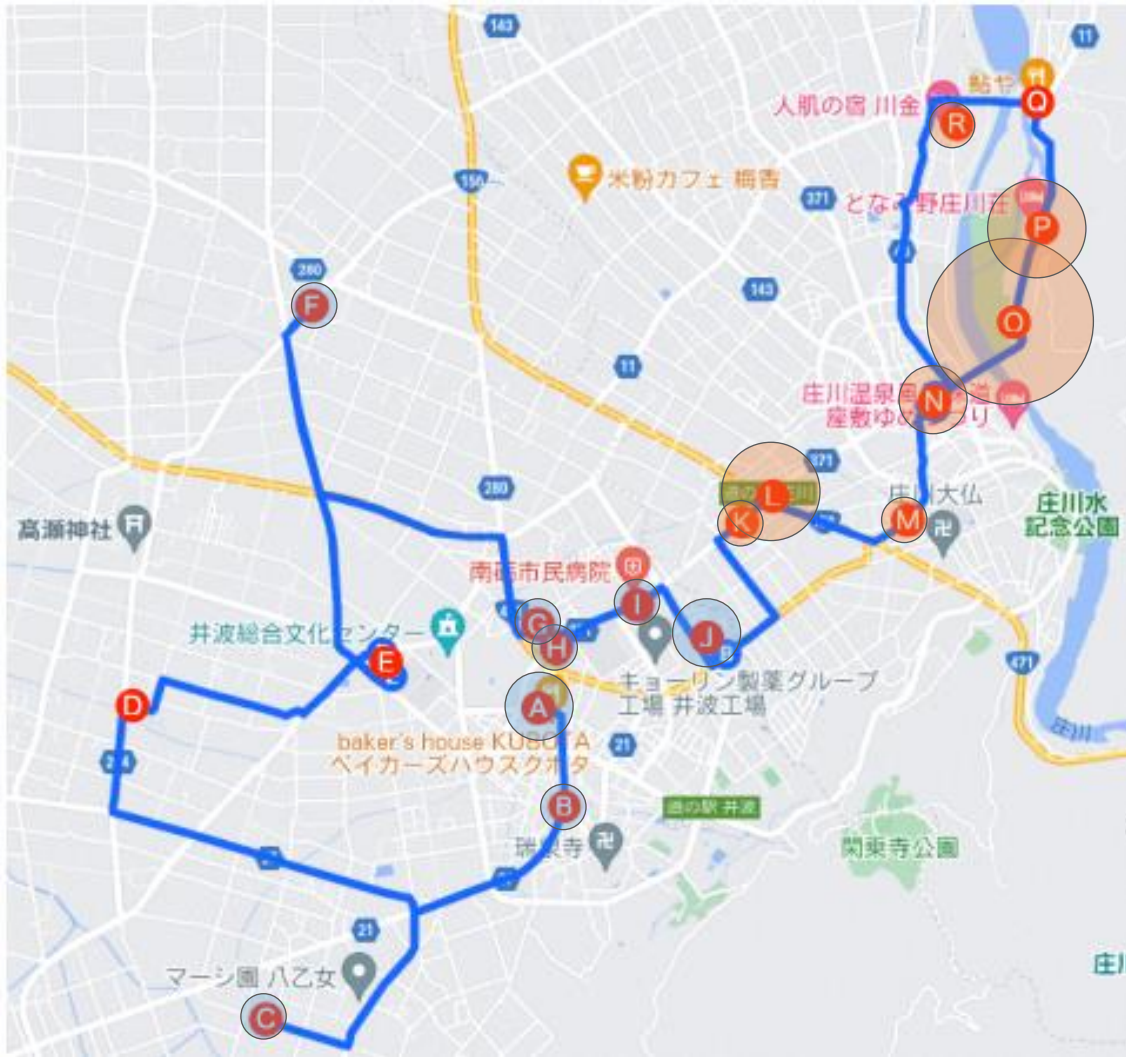


図 19 バス停ごとの降車場所

図 19 より、乗車場所としては「A. アスモ」「O. ゆずの郷やまぶき」「P. となみ野庄川荘」のバス停からの乗車人数が 20 名以上と多くなっている。近隣住民の利用のほか、施設利用後の帰宅の際に利用されたと想定される。



【凡例】

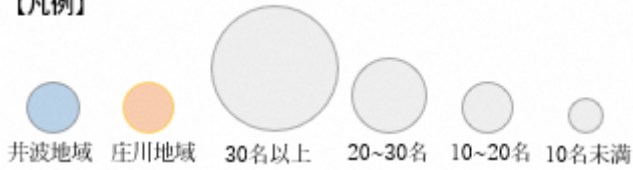
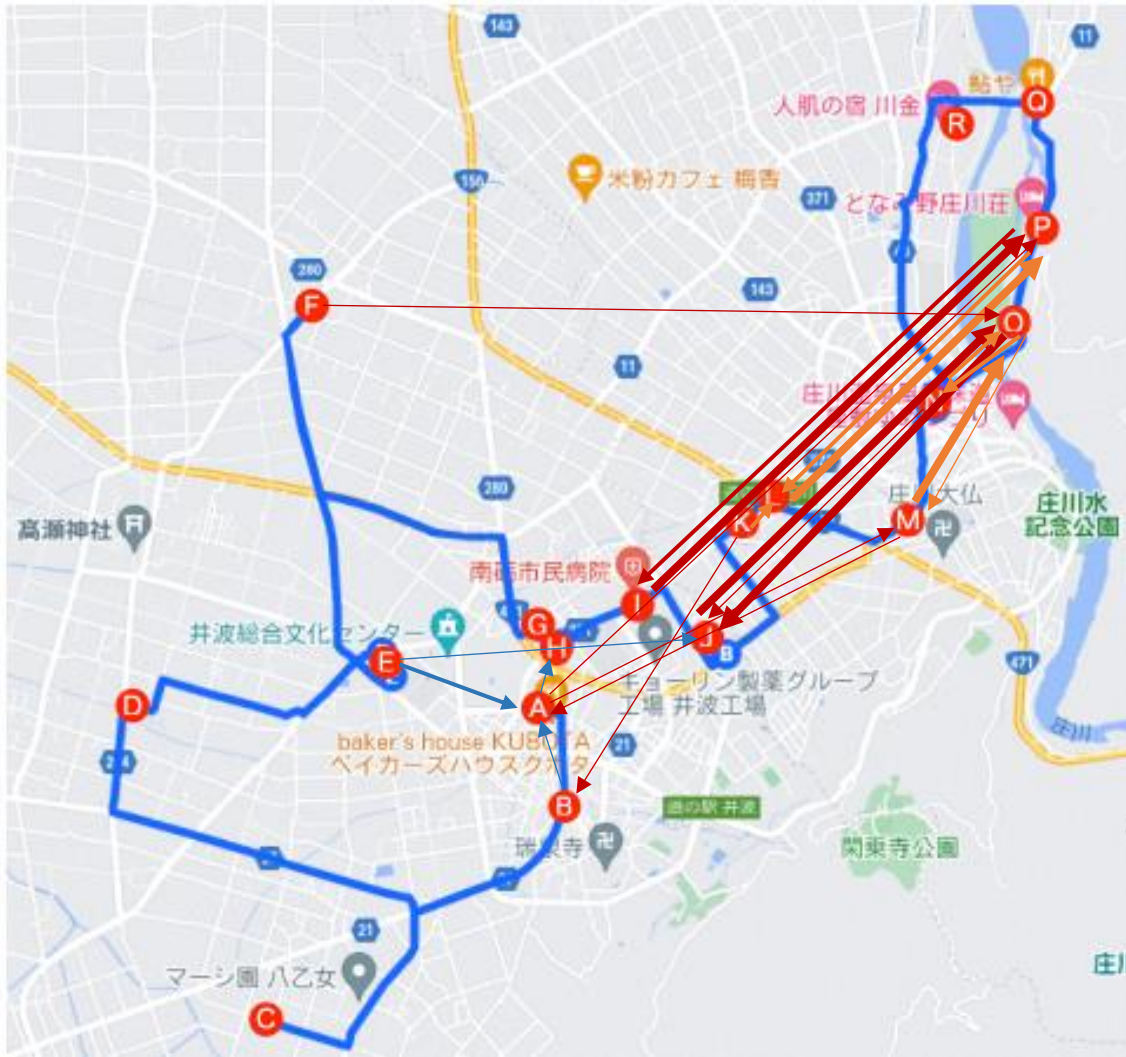


図 20 バス停ごとの降車人数

図 20 より、降車場所としては「O. ゆずの郷やまぶき」「P. となみ野庄川荘」「L. 道の駅庄川」のバス停における降車人数が 20 名以上と多くなっている。温浴施設や買い物施設への移動を目的とした利用が多かったと考えられる。



【凡例】

- 井波地域内移動 → 3.4回 →
- 庄川地域内移動 → 5~9回 →
- 井波庄川間移動 → 10回以上 →

※1,2回のみ移動は表示していない

図 21 バス停間移動の利用回数

図 21 より、赤色の井波地域と庄川地域を跨ぐ移動が多く、特に井波地域の「I. 南砺市民病院」や「J. 石坂内科醫院」と、「O. ゆずの郷やまぶき」や「P. となみ野庄川荘」の間の移動に多く利用されたことが分かる。その他、地域内の移動としては「M. 西蓮寺」と「O. ゆずの郷やまぶき」の間で多く利用されていることが分かる。

## 2.2 運行状況等の整理

バス委託先に対して運行に際しての課題や車内の様子などについてのヒアリングを実施した。全体として月金バスの運行に対して、運行を継続してほしいという声を多く確認することができた。また、バス内での利用者間のコミュニケーションも活発に交わされており、普段交通手段がなく外出が困難であった住民に対して交流の場を提供する役割も果たすことができ、短期間の運行ではあったが、地域にとって交通と福祉の両面から重要な役割を果たすことが出来た。

### A) 利用者意見・お問い合わせの整理

#### ◆運行ルートについてのご意見

- ・金剛寺まで運行ルートを伸ばしてほしい。
- ・今町通りを通過してほしい。
- ・井波市民センターや公民館などに老人カーを停めて置く場所を作り、バス停を設置してほしい。
- ・各交流センターを回った後に、もう一度、アスモに寄ってほしい。
- ・水記念公園や、ウッドプラザに行きたかった。
- ・木崎野の地蔵さん、または尼寺を経由してほしい。
- ・ヴァローレで乗降扱いしてほしい。
- ・今町 1 区で山本歯科の近くに住んでいるが、一番近いバス停はどこか。ヴァローレに行きたい。

#### ◆時刻表についてのご意見

- ・1 便で生涯学習センター来て、2 便で買い物に行ける。本当に便利になった。

#### ◆良い意見

- ・毎回利用している。大変便利で、普段の生活で近所の人たちと話す機会や場所がほとんどないので、乗車している人とおしゃべりできて楽しい。なんとしてでも続けてほしい。
- ・最近ネット予約するデマンドのものがあるが、高齢者にとっては逆に不便。決まった時間に決まった場所に来るバスのほうが安心して利用できる。
- ・普段は全く外にでない。買い物に行く足が無いし、帰りは荷物が多くて大変。こういった便利なバスがあると、天気の良い日は買い物に行こうかなと思える。今度は図書館（きぼりっこ）にも行こうと思う。みんなもっと利用すればいいのと思う。
- ・このまま続けて欲しいからたくさん乗りたい。
- ・どこでも降りられるのは素敵。
- ・お風呂に行くのか大変だったが、これがあるから行けて嬉しい。
- ・ラフォーレでお風呂はプール使わなくても入れることを乗客のおばあちゃんが初めて知り、来ようとしている。

#### ◆改善点についてのご意見

- ・バス停の位置が分かりづらい。

#### ◆今後の取組みに対するご意見

- ・老人会などに声をかけて、老人の声を聞く機会を作ってほしい。
- ・ラフォーレ：いつ月金バスが再開するのか、利用者から多数質問されている。
- ・冬場は路面が凍結していて、長い間歩くことが不安なので、冬場だけでも月金バスを走らせてほしい。



◆普段のお買い物について

- ・外には全く出ない。
- ・免許証を返納したばかりで困っている。
- ・娘が週に1回のペースで買い物に連れて行ってくれる。
- ・家の近くにとくし丸が来ていて利用している。大変便利だし、近所の人が4～5人集まっているので、お話するのが楽しい。
- ・日用品であれば、アスモとクスリのアオキで購入しており、その辺りであれば自力で行けるが、温浴施設（庄川荘）は遠いので自分の力では行けない。このバスは施設の目の前で止まってくれるので嬉しい。
- ・やむを得ずタクシーを利用しているが高齢者にとっての負担は大きい。このバスや昨年度まで実施していた南砺市の実証バスは安価、無料で大変助かる。

◆その他

- ・冬場はヒートショックの恐れがあり、自宅での入浴をなるべく避けたいため、月金バスで入浴施設を利用した。
- ・広告は、新聞チラシ、全戸配布のチラシ、ラフォーレの掲示で知る方が多かった。
- ・予約制のデマンドバスは、予約が大変なのと、帰りの予約方法がわからず、不安で利用をためらってしまう。

B) 運転手への聞き取り

- ・乗降場所が自由になっているが危険な場所で乗車を待っていた事例は特になかった
- ・利用者のほとんどが高齢者。複数名の仲良しグループで乗車される方もいる。
- ・お買い物よりは、やまぶきや庄川荘など温浴施設を利用されている方が多い印象。
- ・このバスは駐車場以外でも運行ルート上であれば途中乗降可となっており、途中乗降する方も多い。

### 3 運行エリア周辺における他の交通機関との関係性の整理

今回、月金バスを運行したエリアには、加越能バスと南砺・砺波両市の市営バスが運行されている。エリアを運行するバスは、下記の通りである。

- 加越能バス
  - 庄川線（平日片道10便、休日片道11便）
  - 加越線（平日片道3.5便、休日片道3便）
- 南砺市営バス（なんバス） 運賃：210円
  - 福野・井波・井口循環線（右回り・左回りで平日各5便）
  - 井波福光線（平日片道7便）
  - 城端井波線（平日片道5便）
  - 利賀井波線（毎日3便）※庄川の一部を運行する。
  - 下梨井波線（火・金曜のみ2便）※庄川の一部を運行する。
- 砺波市営バス 運賃：100円
  - 庄川線（片道6便、日・祝日運休）
  - 高波線（平日片道4便）
  - 庄川北回り線（平日5便、12月から3月まで）

これらの他に、南砺・砺波両市は、それぞれデマンド交通を運行している。

#### ■南砺市（井波地域）

タクシーのように、自由な 2 地点を移動できるものではなく、指定されたバス停間のみで移動できる。令和 5 年度も実証運行を行う予定。

- ・運行時期：令和 4 年 10 月～12 月
- ・運賃：300 円
- ・バス停は、概ね 1 つの町内に 1 つ設定
- ・予約は、乗車の 1 時間前まで

#### ■砺波市

庄川中学校区で、『散居村型モビリティ「チョイソコとなみ」』を運行開始。行き帰りの時間がそれぞれ指定されており、行き帰りで各 3 便が設定されている。

- ・運行開始時期：令和 4 年 10 月（月曜～金曜）
- ・運賃：大人 500 円
- ・自宅前から指定停留場間で移動可。自宅間、停留所間での移動は不可。

井波・庄川両地域は、中心部間が非常に近接しており、1 つの商圈を成している。そのため、ある施設が片方の市にしかないという状況もある。

例えば、大きな病院（南砺市民病院）は、井波にあって庄川にはない。ホームセンターや温泉は、庄川にあって井波にない。このように、市域をまたぐ移動の需要があると見込まれるが、現状で両市をまたぐ公共交通機関は、ほぼ加越能バスのみ（なんバスの利賀井波線と下梨井波線は一部、庄川地域内を走行する。）である。

そこで、両市のまたぐ、買い物、通院、入浴等の需要がどれだけあるのかを見込むため、本実証運行を実施した。

## 4 今後の月金バス事業化検討

### 4.1 利用促進策の検討

本事業においては、16 日間(8 週×2 日)という短い運行期間ではあったものの、238 名もの方に利用を頂いた。また、利用者の方々からのご意見や地元の方からも、大変便利になり、今後も続けてほしいという存続を願う声が多く聞かれており、大変好評であった。

一方で本事業を今後も継続して実施していくためには、利用者を一層増加させるための利用促進が必要であり、特に以下の 3 点について重点的に検討することが必要と考えている。

- A) 月金バスの周知方法の検討
- B) リピート率増加に向けた施策検討

#### A) 月金バスの周知方法の検討

##### (ア) 特定の地域・施設への重点的周知の工夫

本事業のアンケート結果を踏まえ、月金バスが良く利用された地域や施設が判明した。今後バスルートに含まれる地域の全域に周知することも重要である一方で、月金バスのニーズが高い地域及び施設で重点的に周知をすることで、安定した利用者を確保し、持続可能性を高めていくことが必須となる。

#### (イ) 周知方法の改善についての提案

基本的には今回の事業で実施したものをベースとして、有効性に応じて取捨選択していくことが望ましいと考えている。具体的には、本事業によって各施設から月金バスの今後の継続についての問い合わせがあるなど、各施設に月金バスの周知により協力を頂ける土壌ができていることを踏まえ、**各施設との連携に力を入れていく**ことが望ましいと考えている。また、地域内で好評であることも踏まえ、地域の掲示板での掲示など、チラシのような一過性とならない方法を検討していきたい。

- 例1) 月金バスを利用して各施設を利用するモデルケースをポスターなどで周知
- 例2) 各施設に月金バスのチラシ常設
- 例3) 各施設における月金バス利用者への割引支援
- 例4) 地域の掲示板等でのポスター掲示

#### B) リピート率増加に向けた施策検討

##### a) 利便性の向上

本事業の利用者に対してのアンケートやヒアリングを追加で行うことにより、**時刻表や運行ルート**の改善を図っていくことが望ましい。地域からの要望が出ているルートに変更して新たに運行を試してみるなど、柔軟に調整を図っていくことが望ましい。

##### b) コミュニティとしての活用

月金バス利用者の意見のなかで、近隣住民で自発的に相乗りして利用したという意見があったほか、バス内で友人とのコミュニケーションが取れてよかったという意見も聞かれた。この結果を踏まえ、月金バスをただの移動手段としてだけでなく、ひとつのコミュニティとしても見ることではないかと考えている。バスに乗車したらたまたま近所の知り合いと相乗りし、会話を楽しみながら移動ができれば、月金バスでの移動そのものが楽しみになり、リピート率向上にも繋がっていくと考えている。

## 4.2 月金バスを本運行する際の課題

#### A) 民間での運行の可能性について

本項では、月金バスを踏襲したコミュニティーバスを民間で運行する可能性を検討する。

民間で運行するには、資金的な問題を解決する必要がある。今回の実証運行では、ジャンボタクシーで運行したが、一便あたりの運行に18,700円の費用が掛かった。1便あたり平均5名の利用であったため、1乗車あたり1人約3,740円の費用が掛かった<sup>3</sup>。

長く運行する際は、自治体のコミュニティーバスの運営形態がそうであるように、バスを保有して、運転のみタクシー事業者に委託することが望ましい。それによって、今回の実証運行よりも大幅に費用を削減することが可能になる。

表3では、その前提で費用を試算した。ただし、車両購入費は含まれていない。

<sup>3</sup> これだけの費用になった理由は、タクシーのメーター制運賃での支払いとなったためである。タクシー運賃は、法令でメーター制運賃、または時間制運賃にしなければならないことに決められている。そのため、今回の運行では両者を比較し、安い方のメーター制運賃での運行となった。

表 4 の収支に関する試算は、表 3 で計算した費用を前提として、1 便あたりの平均乗車人数ごとの不足金額を計算したものである。1人あたりの運賃を 300 円にするには、9 人乗りのワゴン車に、1 便あたり延べ 30 人が乗車しなければならない。これは現実的ではない。したがって、企業協賛金や、自治体の補助金などで経費を補填する必要がある。

企業協賛金を募る方法として、バス停施設スポンサー制度の導入、バスの内外での広告などが考えられる。しかし、9 人乗りの車両で運用した場合、途中の乗り降りを含めてせいぜいで 13 人ほど乗るのが最大かと思われる。その場合でも、約 70 万円の経費が不足する。従って、行政の補助金がなければ運行は難しいものと考えられる。今回の実証運行では、井波地域の地域づくり協議会、及び、庄川地域の自治振興会の協力も得られた。

表 3 バスの運行費用

費目	単価	計算根拠				金額			
		運行/日	2日/週	52週					
運転委託費	¥ 4,000	/運行	3	運行/日	2	日/週	52	週	¥ 624,000
燃料費	¥ 830	/運行	3	運行/日	2	日/週	52	週	¥ 129,480
車検費用	¥ 75,000	/年							¥ 75,000
駐車料金	¥ 20,000	/月	12	月					¥ 240,000
運行予備費	¥ 18,700	/運行	12	運行					¥ 224,400
修理費	¥ 100,000	/年							¥ 100,000
合計									¥ 1,392,880

表 4 収支に関する試算

1便あたりの平均乗車人数 (人/便)	5	9	13	17	21	30
1年あたりの乗車人数 (人/年)	780	1,404	2,028	2,652	3,276	4,680
1人あたりの費用	¥ 1,645	¥ 914	¥ 633	¥ 484	¥ 392	¥ 298
300円で運行する場合の運賃収入 (年間)	¥ 234,000	¥ 421,200	¥ 608,400	¥ 795,600	¥ 982,800	¥ 1,404,000
300円で運行する場合の不足金額 (年間)	¥ 1,049,320	¥ 862,120	¥ 674,920	¥ 487,720	¥ 300,520	¥ -11,120

#### B) 運行ルートの見直しについて

今回の実証運行を行ったことにより、どのエリアで利用されるかが明らかになった。利用者が少なかったのは、井波地域で、南山見・高瀬・山野の各交流センター、庄川地域で、鮎や、川金、及び庄川左岸の道路沿いであった。また、利用が見込めるが運行されなかった場所として、庄川地域の水記念公園が挙げられる。水記念公園を希望する電話が、弊社に数件寄せられた。また、井波地域では今町通りを走ってほしいという電話も数多く寄せられた。運行ルートを見直すことにより、運行ルートを短縮することができ、かつ利用者を増やせる可能性がある。

## 5 総括

一般社団法人イドウラボでは、令和 5 年の 1、2 月の月・金曜日に運賃無料の「月金バス」を運行した。これは、井波・庄川地域を対象として令和 4 年 5 月に開催した交通に関するワークショップで出された両地域で買い物や通院に利用できるバスがないという意見に基づいている。また、両市では、デマンド運行も始まっているが、予約をせずに利用できる定時定路線のバスは、依然として重要である。

井波・庄川両地域は非常に近接しており、ひとつの商圈をなしてきた。今回の実証実験の結果においても、両地域をまたぐ移動が多いことから、そのことが立証された。実際

に、病院、ホームセンター、温泉等の施設は、片方の地域にしかなく、両地域をまたぐ移動は、車を使わない市民にとって必要不可欠である。

今回の実証運行では、ユニークな利用者が 57 名、延べ 237 名が利用した。特に温泉施設の利用が多いことが顕著であった。また、大型の店舗、病院、医院では、予想通りに利用者が多いことがわかった。一方で、井波地域の各交流センター（井波交流センターがあるアスモを除く）、温泉施設を除く庄川沿いでは、利用が少ないことがわかった。月金バスを踏襲したコミュニティーバスを本運行する際には、この結果に基づいて運行ルートを修正する必要がある。

第 4 章で述べたように、今回の実証実験により、井波と庄川を跨ぐ移動のニーズと重要性が明らかになった。引き続き井波・庄川地域を横断して運行する買い物、通院、入浴などに便利なバスが運行されることを目指すために、イドウラボが主体となって、さらにバスの有用性を検証し、引き続き関係者との連携を築きたい。

そして、このような新たな地域交通サービスを導入するにあたっては、自治体同士、交通事業者との連携により、周辺エリアの他地域交通サービスと一体的な利用促進を図ることで、はじめて地域全体の交通ネットワークの維持・活性化につながる。今後は周辺エリアの地域交通サービスが相互にどのような影響・効果を及ぼすか実証運行等の検討段階から考慮したい。また、関係事業者との連携には、ぜひ自治体の仲介等、バックアップも期待したい。